

# 日本ビジネス航空協会 会報

2025 年 1 月号



CONTENTS

- ◇ 巻頭 2025 年 新年のご挨拶 1 ページ  
一般社団法人日本ビジネス航空協会 会長 伊東 裕
  
- ◇ 出張報告 3 ページ

◇ 巻頭



一般社団法人 日本ビジネス航空協会  
会長 伊東 裕

2025 年 新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

元日の能登半島地震という衝撃的な出来事で始まった 2024 年でしたが、世界的にもさまざまな激動や混乱に見舞われ、まさに VUCA (※1) の時代の只中にあることを実感した 1 年でありました。

そのような中で、最高値を更新し年間 3,500 万人を超えようという訪日外国人数の伸びは、本邦航空業界にとっても明るい出来事でした。わがビジネス航空業界も、引き続き着実に実績を積み重ねてきています。

当協会も、昨年 5 月に私が会長を拝命し新体制となりましたが、理事や会員の皆様のご指導・ご支援を賜りつつ、無事新年を迎えることができました。改めて旧年中のご高配に深く感謝申し上げます。

2025 年も、継続的課題である、技術規制緩和や国内空港の利便性向上といった環境整備・改善、そして国内における認知度向上・普及促進に、引き続き積極的に取り組んでまいります。一方で、過去における取り組みの成果や課題の「見える化」も図りつつ、今後の業界発展に向けての建設的かつ現実的な議論が、理事会をはじめとして協会内で活性化するように努めて行きたいとも考えております。

※1 V:Volatility, U:Uncertainly, C:Complexity, A:Ambiguty の頭文字を取った、物事の不確実性が高く、将来の予測が困難な状態を指す造語

2025 年は、大阪・関西万博開催等、明るい話題はありますが、全体としては相変わらず VUCA の時代が続くと見込まれますが、一方で、巳年は変革と成長が期待される年だと言われています。わが業界もピンチをチャンスに変え、VUCA の時代こそ変動する需要に臨機応変に対応しうるビジネス航空の飛躍の機会とすべく、協会としても力を尽くしてまいります。

本年もよろしくお願いいたします。

2025 年 1 月 1 日

伊東 裕

## 出張報告

2024 年 12 月

JBAA

### 【はじめに】

NBAA BACE(Business Aviation Convention & Exhibition)の視察と併せて、「FBO の視察」「NBAA とのミーティング」等の取り組みを実施した米国出張について報告する。

【出張期間】 2024 年 10 月 20 日(日)～26 日(土)

【場 所】 米国 ネバダ州 ラスベガス

Las Vegas Convention Center (LVCC) & Henderson Executive Airport

【出張者】 JBAA 田村副会長、岩戸

【参加者】 BACE に出張し、取り組みに参加した JBAA 会員(敬称略)

愛知県:大久保 忠、丹羽 真理、大嶋 かおり、

セントレア:飯野 裕介、島田 誠也

北海道エアポート株式会社(HAP):阪口 玲磨、矢野 正太、加藤 優作、梶川 圭太

成田国際空港株式会社(NAA):高須 英一郎、松山 大佑、伊藤 美月、藤原 知広

### 【取組事項】

① 10 月 20 日(日)～21 日(月) : Signature 社 FBO 視察

20 日(日) AM, Van Nuys Airport FBO 視察 / PM, Los Angeles Airport FBO 視察

21 日(月) AM, Las Vegas Airport FBO 視察

② 10 月 22 日(火)～24 日(木) : BACE 2024

22 日(火) Exhibition 会場視察 @ LVCC

23 日(水) Static Display 視察 @ Henderson Executive Airport

24 日(木) AM, NBAA とミーティング実施(アジア地域での BJ イベントの開催について)

③ 10 月 24 日(木)～25 日(金) : IBAC ミーティングへの出席

24 日(木) PM, IBAC IAF (Industry Advisory Forum)/ 02 出席

25 日(金) IBAC Governing Board 出席

## 【① FBO の視察】

FBO 視察の目的/背景は、

- A) 米国の FBO の実態調査と日本のビジネスジェット (BJ)専用施設との比較
- B) A)の調査と比較から、日本の BJ 専用施設の利便性向上のための情報収集
- C) 新たに BJ 専用施設を検討する上での情報収集



Signature Las Vegas 外観

BJ 専用施設が設置されている日本国内の空港(※1)の数は 2 桁を数えるに至っているが、その運営に関しては各社更なる利便性向上に向けて取り組んでおり、情報収集にも努めている。また、NAA は 2024 年 7 月に「新しい成田空港構想」を発表し、大規模な空港リニューアルに向けて動き出したが、その構想の中には現在の「Premier Gate」を発展させた「FBO」の機能を有する施設の検討も挙げられている。

(※1: 新千歳、富山、成田、羽田、県営名古屋、セントレア、関西、鹿児島、那覇、下地島の各空港)

加えて現 JBAA 事務局メンバーも、米国 FBO の実態を十分には把握できていないことから、前述の JBAA 会員各社と共に米国 FBO の視察を行った。

### 《視察後のコメント 1》

「BJ ターミナル」と「駐機場(乗降場、給油場も含む)」、「制限区域へ出入りするゲート」が集約して機能していることは利便性の上で非常に重要だと強い印象を受けた。今後、BJ ターミナルや関連施設の配置等を設計/見直しする際には、集約化を選択肢の1つとして検討に加えて欲しい。

### 《視察後のコメント 2》

視察を行った米国の FBO では CIQ 検査は機内で実施され、BJ ターミナルは内際、出発/到着を問わず、BJ の利用者がそれぞれの状況に合わせて、出発/到着前後のひと時を自由に/リラックスして過ごせる施設として活用されていた。

一方、日本の BJ ターミナルは、「CIQ の検査を実施する施設」という意味合いが強く、入国者/出国者を混在させない導線として機能しており、利用の仕方には大きな違いがあると共に、改善の余地があるのではないかという印象を受けた。

### 《視察後のコメント 3》

視察を行った 3 か所の空港の BJ ターミナルの立地は空港の旅客ターミナルとは全く違うエリアにあった。BJ ターミナルが空港導線とは違うルート上にあるため、アクセス時の渋滞を回避でき、一般旅客との交わりも少ないため BJ 利用者のニーズに合致していた。今後日本で新たな BJ ターミナルの場所や導線を検討する際は、この点も考慮すべきだと思う。

## 【② BACE の視察】

例年 LVCC の Exhibition 会場内には、機体メーカーが広いスペースを使用してブースの出展を行っていたが、今年は機体メーカーの広いスペースを使用した出展はほとんど見られなかった。また、正確な実績は確認できていないが、入場者数、出展会社の数も例年に比べ少ない様にした。



LVCC 内の様子



Henderson Airport の Static Display

Henderson Airport の Static Display では、BJ の主要メーカーの 1 つである Gulfstream が不参加の上、参加各社からも新造機の展示は無く、BACE 特有の華やかさは感じられなかった。Gulfstream の不参加理由は、昨年欧州で行われた EBACE の Static Display で、環境活動家が Gulfstream の機体にしがみつき危害を加える出来事があったことが原因になったのではないかと推測されている。

NBAA は Carbon Neutral にむけて、2050 年を“Net Zero Carbon Emission”として表明し、既に一部の空港では SAF の供給が始まったと紹介していたが、環境問題への対応は今後ますます求められていくであろうと思われる。



日本から唯一出展の愛知県ブース



NBAA とのミーティングに出席したセントレアメンバーと

### 《NBAA とのミーティング》

【出席者】 NBAA: Douglas Carr (Senior Vice President, NBAA)

Lia Zegeye (Senior Director Membership & Member Services, NBAA)

セントレア: 飯野 祐介、島田 誠也

JBAA : 田村副会長、岩戸

アジアでの BJ イベント ABACE が上海で開催されていたが、2020 年にコロナ禍で中止になって以降、コロナ禍が明けるまでの期間で NBAA と上海との契約期間が満了し、現在に至るまで開催されていない。そこで、NBAA が「アジア地域での BJ イベントの開催」についての様な意向を持っているのかをテーマにミーティングを持った。

本テーマに関して、NBAA 側は前向きな対応をしてくるのではないかと推測していたが、実際に話した印象や彼らのコメントは、「もし日本でイベントをやりたいならどうぞ」という、極めて冷静/事務的な反応に終始していた。

NBAA 側の反応の真意は明確ではないが、「日本のマーケット(開催地が日本という事)に魅力がない」、「場所に関係なくかつての ABACE の様な形態のイベント開催に乗り気ではない」などが推測された。

ミーティングの内容を受け、少なくとも現時点ではアジア(日本)で BJ 関連のイベントを開催する時期ではないと判断できた。今後、日本でのイベントを検討する際は、JBAA 会員/日本国内の関連事業者、及び関連官庁等の多大な協力、および資金の調達が何より重要であると感じた。

### 【③ IBAC Meeting への出席】

#### A) IBAC Industry Advisory Forum(IAF/02)への出席；

IBAC が取り組んでいる各種案件について報告がなされた。主なテーマとしては「ICAO の取り組みとの連携状況」、「Carbon Neutral への取り組み状況」、「AAM (Advanced Air Mobility)との共存について」であった。



IBAC メンバーと Meeting 合間のスナップ

#### B) IBAC Governing Board (GB) Meeting 80 への出席

JBAA としては 2019 年の BACE 参加時以来の IBAC GB 参加であった。冒頭、新しい Corporate Secretary が選出された。

その後、出席していた各国の Member Association から近況の報告/共有が行われた。JBAA からは、日米の比較として、米国では登録機体の総数が 2 万機を超えているのに対し、日本の登録は 60 数機であり、日本の BJ Market は非常に小さく、伸び悩んでいる事を報告した。その背景には、国土の広さに加え、新幹線網、高速道路網といった他の交通網が充実している事を補足するとともに、BJ 市場の拡大に向けては Inbound 需要の増加から、Inbound 旅客の BJ 国内利用につなげることなどに可能性があるとの説明をした。

### 【まとめ】

コロナ禍以降、JBAA として会員を伴う 5 年ぶりの NBAA BACE への出張であった。BACE へ出展した会員は愛知県のみであったが、各会員が BACE の機会や環境を利用して「FBO の視察」や「BACE での営業活動」、「NBAA とのミーティング」などを行い、それぞれのニーズに応じた活動を展開できたのは大きな成果であったと感じている。JBAA としては、独自の出展は行わないが、会員のサポートを中心に実施するという年度方針に沿った活動が出来た。今年度の成果を受け、今後の BACE への出展者が増えることに期待したい。

以上